



ながま

青森県立大湊高等学校 東京同窓会

第32号

平成24年度
2012年6月23日発行

ベストを目指すも ベターにも達せずか



会長 斎藤 忠志
(第9期)

今年三月末をもって二十九年間勤めた大学教員生活を終えた。学習院大学と横浜国立大学は非常勤として各四年間。次の九州国際大学四年間と愛知学院大学十七年間は一応専任で、「流通・マーケティング論」や「マーケティング・リサーチ論」を講じてきた。一応専任というものは、同時に財流通経済研究所にも勤務し、主任研究員、専務理事を歴任したからである。この研究所には大学卒業後最初に勤めた(株)日本リサーチセンターから移り、結局四十一年間勤務したことになる。

高校を卒業する頃、自分の将来についてはまったく想定できなかった。何の展望も持たず、とりあえず入れる大学に入ってみて、それから考えようと思っただ。一年生の正月帰省中に学校の寮が焼失したこともあって、そのまま東北大学で四年間を終え、社会へ出るようになった。就職先についてあまり知識がないので先輩に尋ねた。会社では上司に理不尽な命令をされても従わざるを得ないが、新聞社ならそういうことはないといわれた(実際はわからないが)。合格通知を受けてからほぼ一か月後に指導教授と呼ばれ、今度日本で最初の本格的な市場調査機関ができるが、行かないかと言われた。たしかに大学では心理学を専攻し調査や統計の勉強も

していた。この会社は東京・銀座にできる、給料は一流企業並み、さらに当時有名であった社会心理学者の南博先生や経営学者の坂本藤良先生たちも経営陣として加わる、という話を聞いて即行くことにした。何といても銀座というのが魅力的だった。東京はちょうどオリンピック直前で道路はいたるところ工事中で、「花の都、夢の都」のイメージなどは程遠かった。当時はテレビなどにも出ていた詩人の寺山修司も、東京にあこがれて青森から出てきたが、自分が思っていた東京はどこにもないなどと話していた。半年後にスポンサー会社十五社(トヨタ自動車、アサヒビール、東芝、味の素等々)のそれぞれに研修に出ることになった。そこで東レ(当時は東洋レーヨン)本社(大阪)に約半年間出向することに。繊維製品ほど流通機構が複雑な業界はない。この時の経験が後の自分の専門の道へと繋がってくる。その後戻ってほぼ三年間勤務したが、時代は流通革命が叫ばれていた頃である。その火付け役の1人であった学習院大学の田島義博先生(後に学習院院長)に知人を介して会った。一緒に流通の勉強しようといわれ転職することに。その後は流通・マーケティングの世界にどっぷり浸ることになる。この間三十代、四十代

五十代には毎年二回ほど各一三週間アメリカやヨーロッパへ、企業視察、調査、学会等に出かけた。

さてこの四月からは自由な日々を送ろうと思っていた。ところが知人から頼まれて、ある団体の仕事を手伝うことになって現在日参している。久しぶりの東京の通勤電車に身体が慣れず(というより年齢か)疲労感が甚だしい。振り返ってみれば、人生の岐路では、その時の環境、時代の流れに流されてきたともいえる。この道は面白いかな、世の中にとって価値があるのかな、自分では選べるのかななどを考えてベターな方を選択してきたと思う。そして選んだあとではベストをつくすつもりでやって来た。あくまでも「つもり」で結果はベターですらない場合も多かったといえそうである。過去は反省と後悔ばかりである。

胸を張って 戻ってこられる 母校のために



校長 佐藤 桂一

この度の定期異動で青森中央高校教頭から大湊高校の校長として着任いたしました。出身はむつ市大畑町です。大湊高校の勤務は初めてであり、しかも、校長として学校経営に携わらなければならず、大変身の引き締まる思いです。まだ、学校内全般に目が行き届かず、わか

らないことだらけですが、PTA・後援会・同窓会が本校の教育活動に対して多大なご支援ご協力いただいていることだけは、関係者の方々からお聞きしております。同窓会長様はじめ、同窓会員の皆様方には、この紙面をお借りしまして心からお礼申し上げます。

さて、本校は平成十四年度に総合学科が設置され、今年度で十年目を迎えます。ここで、総合学科について簡単に紹介いたします。単位制の学校で、単位制とは、学年の枠はないので入学からの年数を「年次」と呼びます。「学年」ではなく「年次」となります。そして、一年次は全員共通の科目を学びます。二年次から将来の進路希望や興味・関心に応じて系列を選択します。系列とは総合学科特有のもので、進路目標に沿った科目選択ができるように、選択の目安となる科目を入れた箱のようなものです。また、系列の特色は、人がそこに属するものではないので、系列に縛られることは基本的にありません。そして、「産業社会と人間」が総合学科特有の必修科目で、キャリア教育の中心的な役割を担っています。この学習内容は「自己理解」「進路情報提供」「啓発的経験」「人生設計」の四つから構成されています。

本校は多様な生徒が入学しています。そこで、総合学科としての特色を生かし、進路希望者、就職希望者それぞれに向き合った指導に努めているところです。年度始めに、先生方を目指す生徒像として「元氣な挨拶で、整った服装をする品格のある生徒」「何事に対しても自ら進んで挑

戦し、目標に向けて粘り強く努力する生徒」を掲げました。当たり前のことを根気強く続けることは簡単なようで意外と難しいものです。これらのことは、部活動や様々な学校行事などの体験から培われるものであり、この二つはこれからの社会を生き抜く両輪であります。本校は新しい戦績を残しています。

最近では、皆様ご承知のとおり、本校卒業生の岸本鷹幸さんが、陸上四〇〇メートル障害で六月九日(土)に行われます日本選手権(オリンピック最終選考会)で優勝すれば自身初の五輪が決定します。三位以内でも、理事会の選考を経て、代表に選ばれる可能性が高いと言われております。実は、五月上旬に日本選手権のTV放映が午後三時頃という情報を得たので、本校体育館で運動部員、教職員、保護者も交えて大型スクリーンで観戦・応援を計画しておりました。しかし、五月中旬に午後七時50分のタイムテーブルが発表になり体育館での観戦・応援の計画は取やめとしました。とても残念ですが、このような取り組みをしようとして、教職員から積極的な提案があるなど、大湊高校のためにと教職員は一生懸命がんばっています。在校生も、岸本先輩の活躍ぶりを我が母校の誇りに思っています。

このように、さらなる発展を続ける母校を、同窓会の方で、さらに盛り立てて戴きたいと存じます。学校としまして、いつでも胸を張って戻って来られる母校となるよう、教職員一丸となって努力する所存です。
(5月17日 記)

近況雑感

郷関出て四十五年

顧問 佐々木彦藏(第7期)

四月十九日昼前、駅ビルの有隣堂で立ち読みをしての帰路、道路の向こうから和服の女性が歩いてきた。五十メートル程に近づいたら、その彼女こちらに手を振るではないか。後ろを振り返ったが誰もいない。間違いなく私に手を振っているのだ。老眼の悲しさ、誰だか分からない。段々近づいてきた。町内会副会長のNさんだった。女性役員二十人の中で一番の美女。鮮やかな色留袖、まぶしいような美しさ。「今日はまたおめかししてどちらへ?」と聞く。「赤坂御苑の園遊会に呼ばれまして」とのこと。ご主人が衆議院議員で現職の内閣官房副長官である。朝刊の「首相動静」に毎日のように名前が出ている人。「お氣をつけて」と別れた。

この夜、銀座「高松」で会合があり、「ピヤアラザライオン」で二次会をして遅く帰ったら、N夫人から園遊会のお土産ですと、菊のご紋入りの和菓子一箱が届いていた。

この三月まで四年間、町内会長をした。昭和五十年代に戸建分譲された団地。昨春秋が自治会創設三十周年に当たるので五十万円の予算を組んでいた。ところが3・11の大震災、液化化で大きな被害を受けた。計画していた「三十周年祭」は無理だろうと思っていた。春が過ぎ夏近くなったら、「こんな時だからこそ無理してでもやろう

じゃないか」という声が町内から挙がり、十月二日開催となった。

会員数二百戸の小さな町内会である。「おやじの会」「ジャズバンド」「子供コース」「ピンポンサークル」など、町内にあるいろいろなグループにも広く呼びかけて、七月に実行委員会を結成した。二十周年祭の時は、全戸に奉加帳を回して寄付を募ったが、今回はそれをせず企業のみ絞った。団地開発のMホームからの三十万円を筆頭に、ホテル、歯科医院、スーパー、郵便局・・・庄巻は昔の会長さんがマグロー一本寄付して下さったこと。築地から来るマグロー解体の職人さん七人の車代七万円だけ町内会で負担してとのこと。



朝十時の子供神輿の町内巡回から始まったお祭りは、バザール・餅つき・古本市・コーラス・のど自慢・ジャズ演奏と続いた。カーネギーホールで演奏したこともある日本有数のドラムペッターTさんが、奥さんのパンジョーと競演でおやじバンドに飛び入り参加して下さった夜の八時過ぎ、最後の演奏「聖者の行進」の曲に合わせて、参

加者全員が前の人の肩に手を乗せ大きな輪が出来てステップを踏んだ。輪の真ん中で写真を撮りながら、地震以来の色々なことが頭をよぎり、町内会長として感無量、感激と感動で涙が止まらなかった。

昭和四十二年に大湊を離れた。役所の辞令が縁で東京へ出てきたが、これまでに数多くの人々との出会いがあり教えを受けてきた。まもなく七十七歳、友の多くも他界した。間違いなく人生の第四コーナーを回ったが、あと少し頑張ってみようかなと思っている。(24・5・25記)

大湊の祭りあれこれ④

立花善裕(第19期)

この稿も四回目、今回は稲荷丸、大神丸以外の山車を概観。

川守の船山車は「辨天丸」とい、戦後間もない昭和二十四年に建造された。同年八月十五日の東奥日報に「大湊町祭典は九月六・七の両日行われるが、川守町内では寄付金で新たに船山車弁天丸を造ることになり下北造船大湊工場に依頼して建造中のところ今回出来上った、同船山車は長さ三十三尺幅七尺で祭典にはこれを加えた三隻の船山車が運行される」とある。下北造船と言ったかどうかは疑問だが川守にあった造船所で建造された。実際に建造に当たったのは上町の船大工・祐川利吉、祐川勝三郎、それに昨年大神丸の模型を完成させ、本年一月二十七日付東奥日報でも紹介された祐川幸男氏等である。御神体(人形)は「児嶋高德」だったが、平

成二十二年からは松山・山田技研で製作した「辨財天」に替った。旧安渡村域では、昭和四十一年に宇田が駅前の畑中旅館の船山車を譲り受け、「八幡丸」として加わるまでは以上の三台を運行していた。

次に大平の「神明峯」。昭和十九年とも戦後とも言われはつきりしないが、田名部新町の香炉峯をモデルにし、屋根無しで、町内の柳谷、高橋、佐々木の三大工によって製作されたものが、台座(正式名称不明)の幅が厚過ぎて相当な重量があり、「梶子が、普通は割れる」と言うんだらうが、「切れた」と長老は語っている。製作時は「新雲峯」と称されたが間もなく地元の神明宮に因んで「神明峯」に改称された。「神明峯」は「しんめいほう」ではなく、「しんめいみね」と読むそうである。



初めて「金太郎と熊」を載せた年の神明峯

人形は「金太郎」になる前は川口哲郎氏が毎年作っていたという。幕類や太鼓等も自前になっていた。前には田名部小川町から借りていた。刺繍の糸が垂れ下がったよれよれの「児雷也」の見送幕が筆者には思い出深い。後に畑中旅館の「天女丸」を譲り受け、船山車ではあるが「神明峯」の名称のまま運行している。

代から三十年代にかけて新町青年団が運営していた龍神山という二層屋根付きの四角い大きな山車があった。これも製作年は不明だが、二十二年に運行された記録があるから「辨天丸」よりは古い。「紅天女」であろうか、飾りの沢山付いたお稚児さんの様な人形が御神体として二階に載っていた。これが載る前は町内の中村流の人達が日本舞踊を舞っていたという。江戸型の山車ではおかめやひよつとが踊るのは普通だが、日本舞踊というのはこの「龍神山」だけであらうし、一時的とはいえとても珍しい。

昭和三十一年以降数年間は初日、二日目が大平、新町、宇田、二日目三日目が下町、上町、川守という日程で祭りが行われたが、二日目の夜には新町の三叉路から神明峯・龍神山、旧大平と安渡の境界、近川の橋を挟んで稲荷丸・大神丸・辨天丸と五台が並ぶこともあった。当時家々には軒花や提灯が飾られており、大湊の祭りが最も華やかだったのはこの頃であろう。龍神山は三日目の安渡地区の運行に加わることもあった。その龍神山も昭和三十五年には廃棄され、現在の新町会館辺りに暫く野晒しにされていた。

昭和三十六年には同町内の畑中旅館当主孝一郎氏が、「稲荷丸」をモデルに「天女丸」を建造し運行した。筆者はこの年、後年文京町のねぶたを製作する乳井武利君共々この天女丸の乗り子をした。昼の運行後、中学生だった我々にまできちんとお膳で夕食を食って馳走してくれたものだった。(続)

語拙見管

癌細胞は無限に増殖を繰り返すし、やがて宿主とも言うべき人間を死に至らしめる。と同時に宿主を失い己も死滅する。死ぬために増え続けるというこのパラドキシカルな構図は、どうも地球と人類の間に似ている様に思われる。地球はその自己治癒力で持ち堪えているが、店子たる人類は傍若無人振りを改めなければ、自己治癒力の限度を超え、宿主諸共となりかねない。▲「必死が日常茶飯事なんだ」「生まれるのには予定日があるが、死ぬのには予定日はない」「誰かの犠牲の上に成り立つ豊かさなんかはイヤ」「せつかく残った命、自分が信じているもののために使わなければもったいない」大震災一周年記念番組組編から、被災者の言葉を拾ってみた。ここに作意は無く、フツと口を突いて出た言葉ばかり。北島康介じゃないけれど「何も言えねえ」▲中嶋さんの原稿を拝見して、大高に新卒で赴任して来た音楽の先生を思い出した。「四つ五つしか違わないのに人にものを教えられるのか」と悪態をついたことがある。嫌な生徒だね。何と失礼な事を言ったものだろう。相手は言わば専門職、そうでなくとも、若い人から教わることは沢山あるし、年輩者からでなければ教われないこともしかり。「教える」教わる」は年齢とは無関係なのだ。さて自分とはいえば、何の専門家でもないの、そういうことは教えられないが、やっぱり年を食っている人は違うと言われるようなジジイになりたいと思っている。

大湊高校ありがとう!!
中嶋皓夫(第11期)



青森県立大湊高校、卒業して五十二年、ずいぶん昔のことになりました。でも生徒だった頃の自分のこと、クラスの友達のこと、教わった先生方のこと、今鮮明に思い出すことができ、懐かしさで胸がいっぱいになります。

一昨年だったか、昭和三十四年三月卒業第11期生の同期会が、下北駅前のもつプラザホテルで開かれたのですが、どうしても

みんなに会いたくて、いてもたってもいられず仕事そっちのけにして今任んでいる神奈川県茅ヶ崎市から駆けつけました。何十年ぶりかで大勢の同級生に会え、懐かしくて懐かしくてしょうがありませんでした。

私は大湊高校では三年間、何事にも全力で取り組み本当に充実した生活を送ったように思います。素晴らしい先生方がいて、学校の教育環境が整っていて、良い友達に囲まれて、生徒が熱心に学ぶ環境が整っていました。私は大湊高校の生徒だったことに感謝し、今なお、幸せにいや誇りにさえ思っています。

私は、大湊高校を卒業後、東京の大学に進学、卒業して小学

校の教師になりました。大学の先輩が勤めていた神奈川県茅ヶ崎市の平和学園という私立小学校からお誘いがあった。その学校に赴任しました。その後公立学校に移り通算二十三年間にわたって市内の小・中学校の教員を勤めました。その勤めの途中で教職員組合から教育環境をより良いものにするという先生方の願いを実現するため、市議会議員を出すことになり、ちょうど組合の役員をしていたため私に白羽の矢があたり、市議会議員に出ることになったのです。しかし、社会科学などの先生ならまだしも、私は小学校で音楽の専科教員、中学校では音楽の教師で政治にはずぶの素人、即戦力にはなれず慣れるまで大変苦労し



茅ヶ崎市議会・中嶋議長と服部市長

ました。でも六回選挙をやり平成二十三年四月まで6期二十四年間茅ヶ崎市議会議員を勤めました。最後の二年間は第二十九代議長を勤めました。茅ヶ崎市は人口二十三万五千人、文字通り市民を代表しての活動をみっちりやらせてもらいました。

じ取ることが出来ました。歴史館の中では、拝観どころか、たいそうお疲れの様子で、うとうと気持ちよく睡魔に襲われている人も見られました。

- 23年10月10日 納涼会
- 23年10月10日 門前仲町「魚三」
- 23年10月2日 役員・有志16名参加
- 23年12月18日 忘年会
- 23年12月18日 高輪「喜久寿司」
- 24年1月21日 役員・有志10名参加
- 24年1月21日 役員・有志新年会
- 24年2月7日 新橋「わのみせ」
- 24年2月7日 過去最多の19名参加
- 24年3月18日 執行部会(事務局会議)
- 24年3月18日 品川「ななかもと」
- 24年3月18日 「花見の会」等内合わせ
- 24年3月18日 水戸借楽園「花見の会」
- 24年4月14日 15名参加(上記記事参照)
- 24年4月14日 理事会・総会開催準備
- 24年5月12日 年間活動計画等
- 24年5月12日 理事会・総会案内発送
- 24年5月19・20日 「むつとの遭遇」支援
- 24年6月9日 理事会・総会仔細確認
- 24年6月9日 当日の役割分担等
- 24年6月23日 納涼会の企画
- 24年6月23日 24年度定期総会
- 24年6月23日 新卒者激励会・懇親会
- 機関紙「ななま」32号発行

二年越しの

水戸「梅見の会」実現!!

太田 功(第15期)



思えば、昨年の三月十三日(日)に行うはずの水戸「梅見の会」は、全く予期せぬ前々日「三月十一日」のあの東日本大震災の影響により実施できず、今回、

漸く二年越しで去る三月十八日(日)に実現の運びとなりました。梅の香り漂う歴史の景勝地、水戸借楽園は、金沢の兼六園、岡山の後楽園と並び称される日本三名園の一つで、梅の名所として全国的にその名が知られており、約十三ヘクタールの広さを持つ園内には、百種、三千本の梅が立ち並び、毎年この時期は全国から数多くの観光客が訪れます。当日は、雨という予報でしたが、会員の皆様の日頃の行いが良いせい、雨は殆んど降らず、少し肌寒い曇り空でしたが、何とか予定のコースを満喫することが出来ました。午前十時前に十五名全員が水戸借楽園駅前に集結し、先ずは高齢者向きの斜め坂を登り、借楽園の東門から入場、庭園内は既に大



好文亭遠景

勢の人でごった返していました。今年の梅は、例年になく大寒波に見舞われた影響でこの時期でまだ、五分く六分咲きという状況でした。本来なら最高の見ごろの時期なのですが、残念の極みでした。それでも庭園内の梅の香りと華麗さは目の保養と安らぎと楽しさと安堵感を与え

てくれました。園内の中心、伝統建築の殿堂で優美さが漂う「好文亭」を拝観し、庭園内で約二時間散策をいたしました。歳をとると(減感)平均年齢三十歳の同窓会員はどこからこのような気力と活力と元気さが出るのか驚きと感動を覚えた次第です。



「霽湖暮雪碑」付近から千波湖方面梅林を望む

その後、庭園内で酒盛り・昼食・懇親会を行い、大いに盛り上がった後、「県立歴史館」に向かい、特別展「肖像画の魅力」に入館、「日本古来の肖像画は権力の座にあるものを没後に描く「遺像」から始まったが、江戸時代以降は中国や西洋の技法をも取り入れ、描かれる人物の対象描き手が広がり、かつ、表現方法も写実的な方向に向かった」という新たな肖像画の魅力を感じ

お疲れ様!

恩師健在

先生の承諾が得られましたので、現況報告を兼ねて原稿同封の手紙の一部及び送って頂いた自作の風絵を掲載します。尚、原稿到着後、年度替りを機に県ポータル協会々長はご勇退されたとのことでした。

「なかま」バックナンバー等を拝受しました。ありがとうございます。さて、現在小生が青森県ポータル協会長、県育英奨学会理事長、県退職高等学校長会幹事、風絵の会計長・・・等々のボランティア活動の何か二関わっているのですが、その実健忘症なもんだから、ご依頼のありました原稿を早速書いてみました。

感謝!

工藤幸七郎



思いもかけず大湊高校東京同窓会事務局次長の立花善裕氏から、機関誌「なかま」への「恩師健在」の原稿依頼が舞い込み、ただただビックリ仰天し戸惑うばかり！実は、立花氏が事務局次長として頑張っておられることは、突然彼から東京同窓会開催の案内を頂戴し、同窓会事

務局次長かい！。立派になったなあ、もうその歳かい！？とその献身的働きに感心しきりだったし、ホントのところ。あの立花君がなあ、と懐かしんでばかりいて、返事を出さず仕舞いだった悔やみに苛まれていたのです。

二つ返事で引き受けたものの、恩師ねえ、健在ねえ」と、大湊高校を思い返すと反省するばかりだし、下戸なのに肝臓が悲鳴を上げ体のあちこちの節々が歳相応に古希古希言い出しているし、引き受けてよかったのかなあと・・・。

私の大湊高校在任は、翌年にインターハイ開催を前にした昭和四十年四月から、あすなる国体を無事終えての五十二年三月迄の十三年間でした。私の教師としての礎を育みその後の歩みを後押ししてくれたのは、十三年間に会えた先生方であり、生徒諸君とその保護者の方々であり、更には地域のの方々でした。感謝！感謝！です。

赴任二年目に、固辞する間もなく突然三年三組担任を任命され、立花氏と出会うこととなったのでした。インターハイ出場の布施勝君を級長に、錚々たるメンバーで、担任はお飾りに終始した思いがありお詫びの言葉しかありません。飛内旅館での卒業お祝い会で、卒業生諸君に酔い潰された記憶は今も鮮明です。

初めての進学組担任をしつつバレー部顧問であった私が、幸か不幸か生徒会インターハイポータル応援団を切り盛りしたのが縁となり、四十二年からポータル顧問坂本亮一先生の後釜に

JR 亀戸駅から 徒歩約十分
亀戸香取勝運商店街(通称香取



JR 亀戸駅から 河野崇章(第25期)



工藤先生自作の風絵

据えられ、滝本清明先生と一緒
に、私が五十三年四月に青森高校へ転勤になるまで務めました。そしてポータル顧問をしつつ、時には生徒会顧問をし、第19期生三組、第22期生三組、第25期生五組、第28期生五組を担任。この間に個性溢れる様々な生徒諸君と出会い、どんなに楽しかったことか。着任して直ぐの本校定時制での理科講師としての授業経験、四十八年の旧校舍から新校舍への移動、五十二年の七位で終わった少年少女クルーの監督をしたあすなる国体とか、思えば限りがありません。感謝!

それにしても、東日本大震災にはまだまだ恐れ戦くばかりですが、木造旧校舎が傾いた43年の十勝沖地震の経験が今もってトラウマになっているのは私だけでしょうか？でも、けつぱらうじゃありませんか!

皆様のご健勝と大湊高校の栄を祈念申し上げます。



「むつとの遭遇」オープニングの鏡割り

大門通り)に、下北半島の物産
ショップ「むつ下北」を出店して
から、一年と二ヶ月余が経ちま
した。奇しくも昨年の震災の翌
日のオープンということ、ま
さに出鼻をくじかれたスタート
でした。少しずつですが、周辺
地域の方々や、母校、下北出身
の皆さんにも知ってもらえるよ
うになり、最近では一日おきに
下北の出身者が訪れるようにな
りました。

ここは、都心のいわゆるアン
テナショップと違い、下町の小
さな商店街の一角にあります。
一日の来店客数も少なく、ひっ
そりとしています。従って、い
らっしゃったお客様とは親しく
会話が出来ます。戦時中、下北
に疎開していたという年配の方
や、勤務で数年滞在していたこ
とがあるなど、関わりがあった
方なども大勢いらつしやいます。
現在の下北の状況をお話して
あげると、皆さん一様に懐かし
み、喜んだ表情で帰ります。

《お知らせ》
「むつ市のうまいは日本一
in 亀戸」むつとの遭遇」二
回目十月下旬に予定されて
おります。



田名部祭り囃子を奏する明盛組の面々

も間近に見ることが出来ます。
商品は、下北で採れた素材でつ
くったものを中心ですが、県内
商品も一部置いてあります。店
が狭いため多くの商品を置くこ
とができません。時々、あんな
まりないね」と言われてがっかり
させることもありましたが、小
さなお店なので、勘弁して欲しい
と言っておりまして。今後は、
通販などにも力をいれ、また、
下北で埋もれている商品を、首
都圏の皆さんにお届けしたいと
思っています。

★
五月には十九二十の二日間、
商店街イベント「むつとの遭遇」
が開催されました。むつ市から
宮下市長をはじめ沢山の職員、
関係者、市の経済界の面々も駆
けつけ、商店街を盛り上げてく
れました。圧巻は、田名部まつ
り。若い衆が奏でる、笛、太鼓
鉦の音が鳴り響き、時には激し
い踊りも披露するなど、一時は
興奮の坩堝に包まれました。

東京へ下北を贈ろう!
なまこ・ほたて・菜の花商品・海産物全般
有限会社 **すぎやま**
青森・下北ふるさとの会
青森県上北郡横浜町字大豆田127
TEL0175-78-2080・FAX0175-78-6051
URL: http://www.rakuten.co.jp/aotoku/
E: mail.sugi@jomon.ne.jp
MyE-mail: toru0629p@yahoo.co.jp
代表 杉山 徹 第22期生
本所のトップ下北半島

むつ市の便利は「やなぎや」のお菓子で・・・
YANAGIYA
●田名部ばやし
●おのみなと
●フライボール
●寒立馬サブ
●他 銘菓各種
代表 柳谷 一雄 第5期生

緑町本店 むつ市緑町17-58
T.0175-28-2880
金谷店 むつ市金谷2-7-11
T.0175-23-6720
URL: http://o-yanagiya.jp

ミニ特集 ふるさとを 知ろう

大湊高校の在校生・卒業生の大半は下北半島に生まれ、そこで育ったのでしようが、その下北半島で一番有名なのは、と問われたら、松山ケンイチではなく、恐山というのが答だと思ふ。その恐山も、TVにもよく出る有名な民俗学者だという神崎宣武でさえ「津軽の恐山」と書いて(まつりの食文化)角川選書、まかり通る程度にしか知られてはいないというのが実状です。(やはり大湊高校が甲子園まで行かないと下北は認知されないのかも知れない)。

それでは下北に生まれ育った我々がどれだけのふるさとを知っているかといえば、これも心許無い。そこで、覗き見の興味であれ、学術的趣向であれ、下北半島関連のウェブサイトを、雑誌、書物等々を紹介して、知っている人にも、知らない人にも、知りたくもない人にも、改めて下北半島に親しんでもらおう、というのがこの特集の趣旨であります。最初にロシア人が覚えた日本語は下北弁だった、というのは笑話ではないのです。

下北を見直して頂いて、「下北のカマリ」のするこの同窓会に一人でも多く参加者が増えればいいなという下心もあります。

今を知る為のウェブサイトを、過去を知る為の印刷物という区分け、「こんなものがあったのだ」と関心を引けば、そこが入り口です。

- △インターネット関連
 - 下北関連のウェブサイト。むつ市のHPから簡単に入れるものは除きました。
 - △下北半島の遺産
 - http://www.16.palaeor.jp/shimokita-isan/
 - △大平小学校
 - http://edweb.mutsu-e-shimokita.jp/008oodra_syo/index.html
 - △じんさんのホームページ
 - この中の「下北便り」
 - http://homepages3.nifty.com/iinsanz/
 - △若くともま「神主徒然日記」
 - 川内八幡宮の別当のブログ
 - http://blogs.yahoo.co.jp/tsukasa-ishikura
 - △のほほん お散歩日記
 - http://onamemokaseesanet/hikoのまつりブログ
 - http://hikomata.blog4.fc2.com/
 - △まことかりまつり
 - 「毎日情報発信・下北半島の魅力を伝える、ご当地からの情報発信サイト」のキャッチフレーズ
 - http://masakarimaturi.com
- △旬報志もまた(復刻版)
 - △むつ政経文科新聞(創刊号120号合本)
- 【雑誌】
 - △うそり(下北の歴史と文化を語る)
 - 会2年刊・48号まで刊
 - △しもきた文化(しもきた文化社)
- 【文庫】
 - △青森県史 民俗編資料下北
 - △下北半島北通りの民俗 青森県史叢書
 - △下北半島西通りの民俗 青森県史叢書

△原始譚筆風土年表(大畑の村林源助が見聞き体験した事を書き留めた下北に限られない歴史や民俗の貴重な記録)

(むつ市有形文化財指定)



△下北郡地方誌(笹澤魯羊最初の著作・広告満載、当時の商工業や人物を知るに適当)



△下北半島町誌(笹澤魯羊著「田名部町誌、大湊町誌、川内町誌、東通村誌、大畑町誌、風間浦村誌、佐井村誌」の合本・復刻)



△各科郷土教育資料(大畑巖編・大湊尋常高等小學校)

△大湊浜町略史(上藤恭悦編著・近川稲荷神社を中心とした浜町史・二心組史)収録

△郷土書 故郷城ヶ沢を尋ねる(城ヶ沢万年青会編・城ヶ沢日常生活史)

△圓通寺誌・願求院史

△知っている「大中」I・II・III(辻登志男編・大湊中学校)

同期会便り

第五期(あしざき会)

畑中皓二(第5期)

△吏員日記 上・下(浜谷一梅著・日記ゆえ個人情報満載だが市役所の動き、住人の様子が手に取るようにわかる)

△北辺の嵐(小田原金一著・大畑から北海道を舞台に、史実を盛り込んだフィクション)



平成二十三年六月二十七日に下北駅前「プラザホテル・むつ」で行われました。

喜寿を祝う会の企画では参加者を三十名位と見積もっておりましたが、最終的に予想を大きく上回って五十名の参加を得ました。皆さん元気いっぱい楽しい時間を精一杯はしゃぎまくりました。

それにしても同期会員が、一人二人と欠けていくのは、宿命だとしても寂しいかぎりです。翌朝、次の節目である「傘

若者の街渋谷で「安堵会」

富澤千里(第16期)

それまでも断続的に行われていた同期会を再興しようと、三年前の四月、関東地方に在住する同期生の集まりである「安堵会」を結成した。「大湊」で生まれ育った者、中学・高校時代のある時期を「大湊」で過ごしたことのある者が、大湊高校の卒業生か否かを問わず、「同期生」として、年に一度は顔を合わせて旧交を温めようというのが「会」の趣旨である。

昨年七月二十八日十四時過ぎに亡くなりました。「胆管癌」で前日まで入院してましたが、主治医に「ご自宅です」とすすめられ、翌日ご家族に見守られておやま(恐山)に旅立ったとのことでした。

彼は東京同窓会創設時からの中心役員で、当同窓会は勿論、クラス会(5期・6期)、高総連などでも大変な人気者で、其々の会を盛り上げて呉れました。

彼の居ない会は寂しいです。でも、おやま支部は賑やかにあります。私ももう少し後に其方に行きますので…。

ベッコさん! マロさん! さようなら!

ご冥福を祈ります。

合掌 (5期 畑中皓二 記)

名物副会長 越膳喜一郎さん 逝く

次回(来年四月の第一土曜日)と決まった。

が高齢者のならい。五月二十六日(土)、渋谷東急インに十五人が集い、近況を報告したり思い出話に花を咲かせたり、あっという間に二時間が過ぎた。喋り足りずに大挙してカラオケルームに移って、そこで二次会。選んだ曲に、同期生の「大湊」以後の人生が投影されていると感じたのは私だけではなかったであろう。



「東京生活」アンケート

No.27

今年三月、われらが母校青森県立大湊高等学校を卒業し、進学・就職のため上京した同窓会新会員第64期生の皆さんに、初めての東京生活についてのあれこれを尋ねてみました。

(返信到着順)

《質問事項》

- ①東京(首都圏)で生活してみても一番ビックリしたことは何ですか? ②言葉の問題で悩むことはありましたか? ③上京後、クラスメイトに何回会いましたか? ④毎日の仕事(又は学校)は、きついですか? ⑤今の仕事(又は学校)をかわりたいと思ったことがありますか? ⑥田舎に帰りたいと思ったりありますか? ⑦大湊高校時代で一番印象に残っていることは何ですか? ⑧母校の後輩に言いたいことは? ⑨いま一番会いたい人は? ⑩その他、どんなことでも...

■永田千尋 (東京都大田区)

- ①「聖徳大学幼児教育専門学校」で電車の本数が多い。②特にありません。③友達には一回だけ会いました。④学校は楽しいけど、アルバイトはきついです。⑤学校はありませんが、アルバイトは変えたいと思っています。⑥何回かあります。⑦休み時間の友達との絡み。⑧東京は悪いイメージがあったけど、優しい人もたくさんいること。⑨芸能

人・先生・友達⑩友達と遊びたいです。学校は友達が出来たしクラスにもなじめたのでよかったです。

■匿名希望 (東京都板橋区)

- ①人が多くことです(笑)。②特にないです。③六回くらい。④普通です。⑤ありません。⑥特にないです。⑦卒業式。⑧夢は叶えましょう。⑨担任の先生(弥生先生)

■匿名希望

- ①とくになし。②とくになし。③一回④ふつうです。⑤はい。⑥はい。⑦文化祭・体育祭。⑧とくになし。⑨クラスメイト

■瀨川直人 (東京都品川区)

- ①鼻毛の成長速度が急に向上した事。②無い。③一回。④日による。⑤割とある。予想はしていません。⑥かなりの頻度で有る。⑦個性溢れる先生方。⑧都会は怖い所です。⑨地元友人。⑩東京にはこれまで都合で何度か来ていましたが、いつ来てもダンジョンです。

■伊勢田翔(神奈川県横須賀市)

- ①一番ビックリしたことは、人の多さです。②特になし。③まだ会っていない。④きついです。⑤毎日楽しく仕事をしています。⑥特になし。⑦あります。⑧各地域の野球人が集り、一緒に野球ができたことです。⑨クラスメイト、友達、仲間を大切にしよう。⑩早く地元に戻りたい。

■後藤勇太(神奈川県横須賀市)

【海上自衛隊】

- ①人の多さ。②なし。なまりを広めてる。③会ってない。④きつい。⑤なし。⑥ある。⑦33HRで起きたこと全て。⑧33HRで臨んだ行事。⑨学生は暴れるもんだ。⑩えびすけ。あゆみさん。(33HRの副担と担任)⑪キツくて辛いけど、同期とがんばってます。けど、楽しいこともいっぱいあります。最後に、都会はいこちが悪い(笑)

■三上沙輝 (埼玉県狭山市)

- ①人の多さに驚きました。②特にありませんでした。③二、三回くらいです。④高校より授業時間が長くて、覚えることもたくさんあるので、とても大変です。⑤思ったことはありません。⑥最初のころは思っていました。⑦体育祭や大高祭です。⑧高校生活を大切に楽しく過ごしてください。⑨家族です。

■匿名希望 (神奈川県横浜市)

- ①人が多く事・食べ物が多い事・電車が頻りに来たりおもしろい事・スイーツがたくさんあること。②特になし。③一度もなし。④きついです。⑤専門的な勉強ばかりでむずかしいです。⑥今の学校で良かったと思います。⑦ありません。今のところ。⑧仲の良い友達がいいたのでとても楽しく三年間すごせました。⑨家族や田舎の友達です。

■服部里菜 (東京都板橋区)

- ①特になし。ワイルドだぜえ。②特になし。ワイルドだろお。③結構会ってる。語るの楽しい。④楽しいです。バイトも

学校も。六法をめぐるのクセになりそうです。⑤全くなし。先輩も最高に優しいし辛いと思わない。⑥そんなに帰りたいと思わない。なぜなら結構充実生活。⑦部活とか。行事とか。とりあえず全部。⑧楽しく生きろ。すまいるを忘れずに。自分を見失うな。⑨高田淳次。どんどんびきびきどーんびき。どんどんびきびきハッ!⑩学校の友達、バイト先の人、環境に恵まれてます。幸せです。弥生先生に会いたい。藤田先生、原先生、航先生に会いたい。なんとなく。

■柳谷史帆 (東京都北区)

- ①美しい人がたくさんいます(笑)。人がとても多いことです。②特にありませんでした。東北の子も結構いますし、青森県出身の方もいますし、言葉の問題はありません。③一回。同じ人に二回会いました④早い時は朝の三時や四時に起きることがあり少し辛いです。上下関係も同業他社より厳しいと感じました。⑤最初は学生気分が抜けずに怠いなあとと思うことはありましたが、かわりたいと思ったことはありません。⑥寮生活が楽しいので、田舎に帰りたいと思ったりはあります。⑦大高祭です。特に大高祭・体育祭です。最高学年ということとで、完全燃焼しました。担任の誕生日を祝ったことも印象深いです。⑧葛西弥生先生です。⑨敬語が使えると恥ずかしいです。すよ!⑩2HRの仲良しだった方々です。まあ皆様に会いた

いです。⑩素敵なバスガイドさんになります。!!皇居と浅草なら既にバッチリです(笑)

■大室 涼

- ①物価が高い。②方言がわからなかった。③一度もない。④とても辛い思いをしている。⑤まだ思っていない。⑥何度か思っている。⑦体育祭。⑧社会はそんなに甘くない。⑨恩師。⑩今思えば、高校に戻りたいと思う...

■杉本彩乃 (東京都葛飾区)

- ①雨の日の電車の混み具合。②特になし。③0回。④仕事はきつくないですが、仕事からの学校がきついです。⑤ないです。⑥何度もあります。⑦33HRでの体育祭(四十人四十一脚)。⑧今の生活して思うのは、高校生って楽だよ(笑)。⑨家族・友達(地元)⑩東京に来て、仕事が辛かったです。二週間は泣くこともありましたが、自分は絶対ホームシックにならないと思っただけで、だいぶホームシックになりました。でも、こつちで友達もできたし、寝ること、食べることに、今まであたり前だったことにすごく幸せを感じています。これからもがんばりたいです。

■松山璃莉 (埼玉県富士見市)

- ①暑くなるのが早いこと。②普段つかっている言葉が通じなかったり、イントネーションが違うので困ったが、諦めた。③二回。④忙しいがきついというほどまだ何もしていない。⑤ないです。⑥毎日。帰るために頑

張ってます。⑦すべての行事。⑧やっぱり地元が一番です!!⑨華子先生。⑩海がないのはつらいです(笑)。

■匿名希望 (神奈川県横須賀市)

- ①交通の便の良さ。②ないです。③一回。④楽しいです。⑤ないです。⑥ないです。⑦友達とサイクリング⑧頑張ってます。⑨弥生先生。

編集後記

今年もどうにか出来ました。例年通り四ページの予定で始めた編集が、見通しの悪さのせいで急遽六ページに変更、結果的には良かったと思っています。

伝統的に長い記事の多い「なにかま」。今号の記事も長いものが多く、執筆者の熱意と解し、削らずに載せました。新卒者のアンケート、十四通は新記録です。有り難うございました。匿名希望の数も新記録です。

批判、感想、激励、企画、原稿、何でも事務局までお寄せください。

発行 青森県立大湊高等学校 東京同窓会 編集 立花善裕(19期) 編集委員 細中皓二(5期) 事務局 千三四三〇〇三 埼玉県越谷市大里 四〇一―四四一 局長 富澤千里(16期) 印刷 富澤千里(16期) N's Digital Factory